

- 平成10年6月13日(土)～14日(日)
県内の小・中学生とその保護者53名参加
- イ 活動内容
- 釣り体験
 - 釣り仕掛け作り、キャンドルファイア
- ③ 親子でフィッシング(投げ釣り体験)
- ア 期日・対象・参加者数
平成10年10月24日(土)～25日(日)
県内の小・中学生とその保護者61名参加
- イ 活動内容
- 投げ釣り体験
- ④ アウトドアクッキング
- ア 期日・対象・参加者数
平成10年11月28日(土)

- 県内の小・中学生とその保護者93名参加
- イ 活動内容
- けんちん煮込みうどん
 - 竹バン作り
 - 樫製作
- ⑤ 自然の宝物作り
- ア 期日・対象・参加者数
平成11年3月13日(土)
県内の小・中学生とその保護者64名参加
- イ 活動内容
- コロボックルの壁飾り作り
 - 森の写真立て作り

福島県郡山自然の家

第1節 概 要

郡山自然の家は、生涯学習時代に対応し、豊かな恵まれた自然環境の中における野外活動や集団宿泊生活を通じ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設である。

昭和47年開所して以来26年目を迎え、6月には延べ利用者110万人を達成した。

また、4月より、当施設を含む県内の四施設が、『財団法人福島県自然の家』として新しく生まれ変わり、利用主体であった小中学生のみならず、一般・企業など多種多層にわたって広く県民の皆様に利用していただけるような施設を目指してスタートした。財団化元年ともいべき本年度は、利用者を主体とした「魅力ある施設づくり」を目指して、所員一丸となって努力した結果、年間の利用団体数約280団体、延べ利用者数約33,500人という、過去5年間で最高の利用実績を上げることができ、多くの成果を上げることができた。

1 運営委員会及び職員組織

(1) 運営委員会の組織

運営委員会の組織は、次のとおりである。

氏名	所 属
◎ 丹治 勇	福島県都市教育長協議会会長
○ 早川 敬介	福島県PTA連合会会長
太田 緑子	福島県青少年教育振興会会長
金子 久光	福島県生活環境青少年女性課主幹兼課長補佐
金田 武士	福島県中学校長会常任理事
川村 紀夫	福島県高等学校長協会県南支部長
国馬 善郎	郡山女子大学短期大学部教授
鈴木 敏夫	福島県教育庁生涯学習課主幹
館 美文	福島県社会教育委員の会議社会教育委員
田中 誠	福島県小学校長会副会長

氏名は委員長、副委員長以下五十音順

◎印：委員長 ○：副委員長

氏名は委員長、副委員長以外五十音順

◎印：委員長 ○印：副委員長

運営委員会は、次のとおり2回実施した。

○ 第1回運営委員会 平成10年7月29日(木)

○ 第2回運営委員会 平成11年2月3日(木)

(2) 職員組織

職名	常務理事兼所長	次長	主任指導主事	指導主事	社会教育主事	主査	主事	計
人員	1	1	1	3	1	1	1	9

2 平成10年度重点目標と成果

(1) 利用団体への支援

① 利用団体が研修成果を上げ、利用者が感動体験を得るためには、利用団体が利用のめあてをはっきりもち、主体的に活動できるよう支援することが大切である。

そこで、利用団体の指導者と連携を密にし、研修のねらい・活動種目・実施方法に対して助言・援助を行うとともに、事前研修会への参加・事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように積極的に支援した。

② プログラムの編成にあたっては、利用者の興味関心や体験等実態に即して、利用団体の独自性を行かせる計画になるよう支援した。

さらに、利用者が自然や友だちや自分自身とのふれ合いを一層深められるよう、ゆとりある日程と弾力的な活動の推進をはたらきかけた。

(2) 利用者の声を生かす

① 運営委員会等関係諸機関の提言を十分生かし、運営改善に努めた。

② 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約し、分析して、運営に生かすようにしてきた。